

子育て世代包括エンパワメント - 保健師、そして母の視点から -

日時：平成30年12月14日（金）18:00～19:30



会場：筑波大学東京キャンパス 116教室

丸ノ内線茗荷谷駅下車「出口1」徒歩5分 https://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html

従来から市町村は、住民に身近な保健・福祉サービスを提供する拠点として、地域での子育てを支えてきました。少子・超高齢化、一億総活躍・働き方改革と言われる時代、子育て支援ニーズはますます高まり、子どもや保護者の身近な場所で、「妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援」を行う「子育て世代包括支援センター」の設置が法的に義務（努力義務）付けられました。

そのような中、**千葉県市原市では「子育てネウボラセンター」を設置し、妊娠届出時から子育てまで、産前産後ケアも含め、ワンストップの支援**を行なっています。本カフェでは、自らも2児の母である保健師の鈴木茜氏より、**市原市の取り組みと、ご自身の妊娠・出産・育児の経験から、「今、求められている子育て支援」**についてお話しいただきます。



鈴木 茜 先生 千葉県市原市保健師

千葉県袖ヶ浦市で幼少期を過ごす。

1999年 順天堂短期大学専攻科卒業後、順天堂医院呼吸器内科入職。

2000年 千葉県印西市役所へ保健師として入職。

2007年 千葉県市原市役所へ保健師として入職。

（在職中、順天堂大学大学院医療看護学研究科修士課程修了）

専門は、公衆衛生看護、おもに母子保健に従事。

市原市役所子ども未来部子育てネウボラセンター保健師として活動中。

2児（4歳児と1歳児）の母

話題提供

渡邊 多恵子 淑徳大学教授

地域コホートデータと保育コホートデータをベースに、子どもから高齢者までの生涯発達とWell-being、それに関係する要因を、質的研究、量的研究の両側面から探求しています。

今回は、2つのコホートデータが明らかにした児童虐待リスク低減要因について報告します。



次回予告

実践編シンポジウム 日時：2019年2月3日（日）14時～16時

場所：慶應義塾大学信濃町キャンパス

コーディネーター：安梅勅江（筑波大学医学医療系）

主催：筑波大学エンパワメント科学研究室、保育パワーアップ研究会

後援：生存科学研究所、日本保健福祉学会

お問合せ — drops-tsukuba@umin.ac.jp（渡邊多恵子まで）